

北特研道東地区大会について

道東地区理事長 森 和仁

道東地区では、8月2日(金)に紋別養護学校で研究協議会を実施いたしました。紋別の地域では珍しい30度近い暑い日の中で、100名の方が本大会に参加してくださいました。参加者の方の中には、周辺の遠軽町や北見市の他に、中札内村や中標津町のような遠方から来てくれる方もいるなど、多くの方に参加していただける研究大会となりました。



全体講演では、「新学習指導要領に基づいた授業実践～主体的・対話的で深い学びの視点を取り入れた授業改善に向けて～」をテーマに、北海道立特別支援教育センター所長小原直哉様に講演をしていただきました。前半は、指導要領の改訂のポイントや特別支援学校の教育課程の現状と課題や改善・充実の方向性についての説明をしていただきました。後半は、知的障害者用の国語科の教科書の中の教材を使って、「何を教

えるか、どのように教えるか、何ができるようになるか」の観点に沿って、どのように指導するか演習を行い、交流も行いました。授業改善を行うには、教師の意識改革や指導力向上が不可欠であり、そのための環境整備や研究・研修の機会の確保が重要であると再認識することができた講演会となりました。

午後の分科会では、国語、算数・数学、作業学習(併設及び高等養護)、自立活動、生活単元学習、寄宿舎の全7部会に分かれて授業改善の視点で協議を行いました。道東地区の学校から提言を出していただき、「何を教えるか、どのように教えるか、何ができるようになるか」の視点で協議を進めました。それぞれの部会では、協議の柱に沿って各校の取り組みを紹介したり、より具体的な方法について協議を行ったりして、2学期からの指導に行かせるような分科会となりました。

道東地区大会が、参加して下さった先生方にとって、日々の授業をより良くできるような視点をもつことができ、子どもたちの将来につながる指導につながれば幸いです。たくさんのご参加ありがとうございました。

